

経産省「令和5年度フェムテック等サポートサービス実証事業」

～地域職域連携による就労妊婦及び夫へのオンライン両立支援事業～ 成果報告書

■ ■ ■

株式会社アイセック

目次

01 – 会社概要

02 – 本実証事業の概要

03 – 中小企業における女性の活躍推進
についての調査

04 – 従業員が感じる女性が働く上での
課題等について²

05 – 実証の成果について

06 – 自治体との連携について

07 – 今後の予定・事業展開

会社概要

会社名	株式会社アイセック.
代表	代表取締役 木村大地
事業内容	健康医療データ分析、健康経営支援、オンライン健康相談事業
設立	2019年12月
所在地	新潟県新潟市中央区学校町通2番町5274-1 新潟大学ライフイノベーションハブ
その他	新潟大学発ベンチャー企業第1号 経済産業省 「行政と連携実績のあるスタートアップ100選」に認定

本実証事業の概要

■ ■ ■

本実証事業のサービス内容

- 子どもの発達チェック、AIチャット相談、オンライン健康相談の3つの機能を実証事業にて展開した。
- 子供の発達チェック機能においては2週間に2回程度質問を配信。その中には仕事と家庭の両立に関する質問やメンタルチェックの質問が組み込まれており、定期的にスクリーニングができるようになっている。
- スクリーニング後のフォローとして、AIによる相談や助産師など専門家への相談フローも設けており、具体的なサポートに結び付くサービスを目指した。

子どもの発達チェック

お子さんの成長記録

月齢に合わせた質問に回答いただくことで、お子さんの「できた!」を記録し、成長を見守ります。



齢に合わせた質問が2週間に1回配信され、回答いただくことで、お子さんの「できた!」を記録し、成長を見守ります。

- お子さんの発育等に関する質問
- 利用者自身のワークライフバランス & メンタルチェック

AIチャット相談

AIチャット相談

「これはどうしたらいいの?」などの子育ての相談や疑問から雑談まで、なんでもAI相談員に相談してください。会話形式でお答えします。



「これはどうしたらいいの?」などの子育ての相談や疑問から雑談まで、なんでもAI相談員に相談してください。会話形式でお答えします。

- AIによるQ&A
- 相談内容に応じた個別フォロー

オンライン健康相談

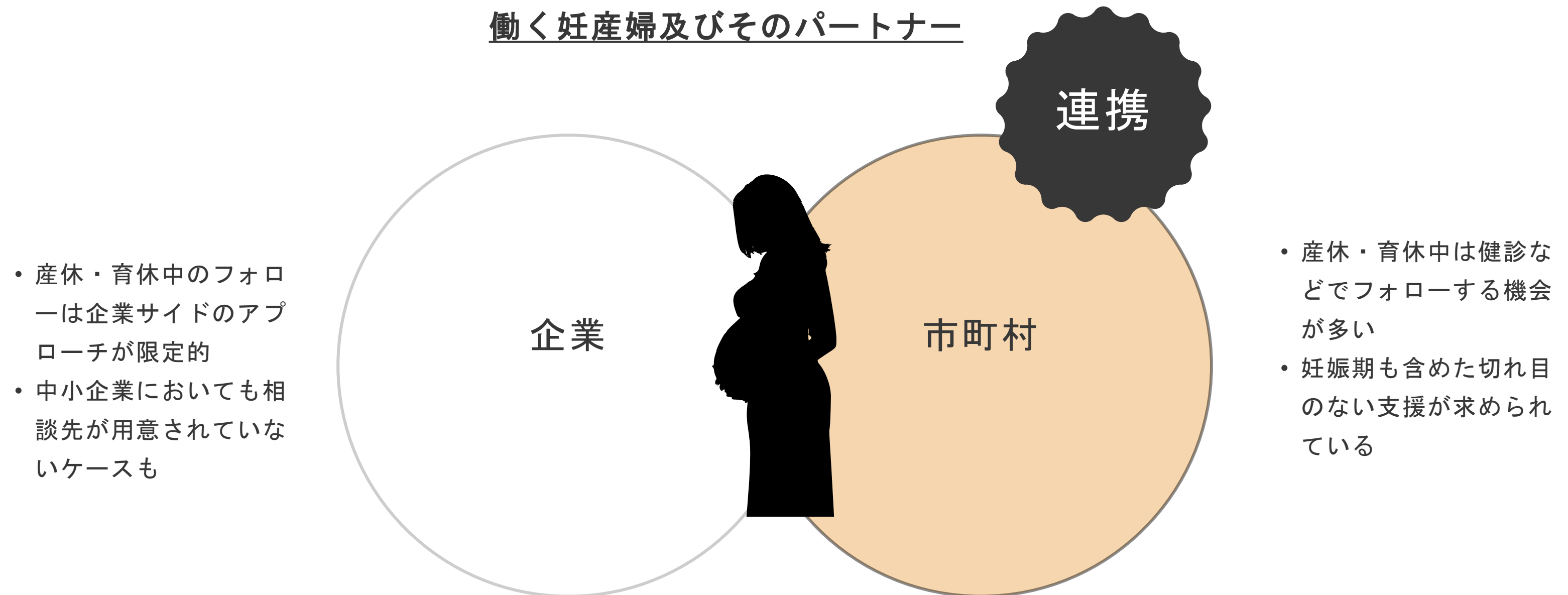


お子さんのこと、ご自身の健康のこと、家事や育児と仕事の両立のことなど、ちょっとしたアドバイスが欲しい方は、保健師さんや助産師さんとお話ができます。

- 助産師等によるオンラインでの健康相談
- 子どもの発達チェックやAIチャット相談の内容を参考に

働く妊産婦さんを対象に、市町村と連携するモデルを実証

働く妊産婦及びそのパートナー



「妊娠・出産」と「仕事」の両立に悩む妊婦と配偶者の相談窓口を行政として設けることで、妊婦と配偶者と会社の架け橋になり、妊娠・出産に伴う離職及び労働生産性低下の防止を目指す。

事業計画に基づき実行したこと

本実証事業では3つの計画 を実行しました

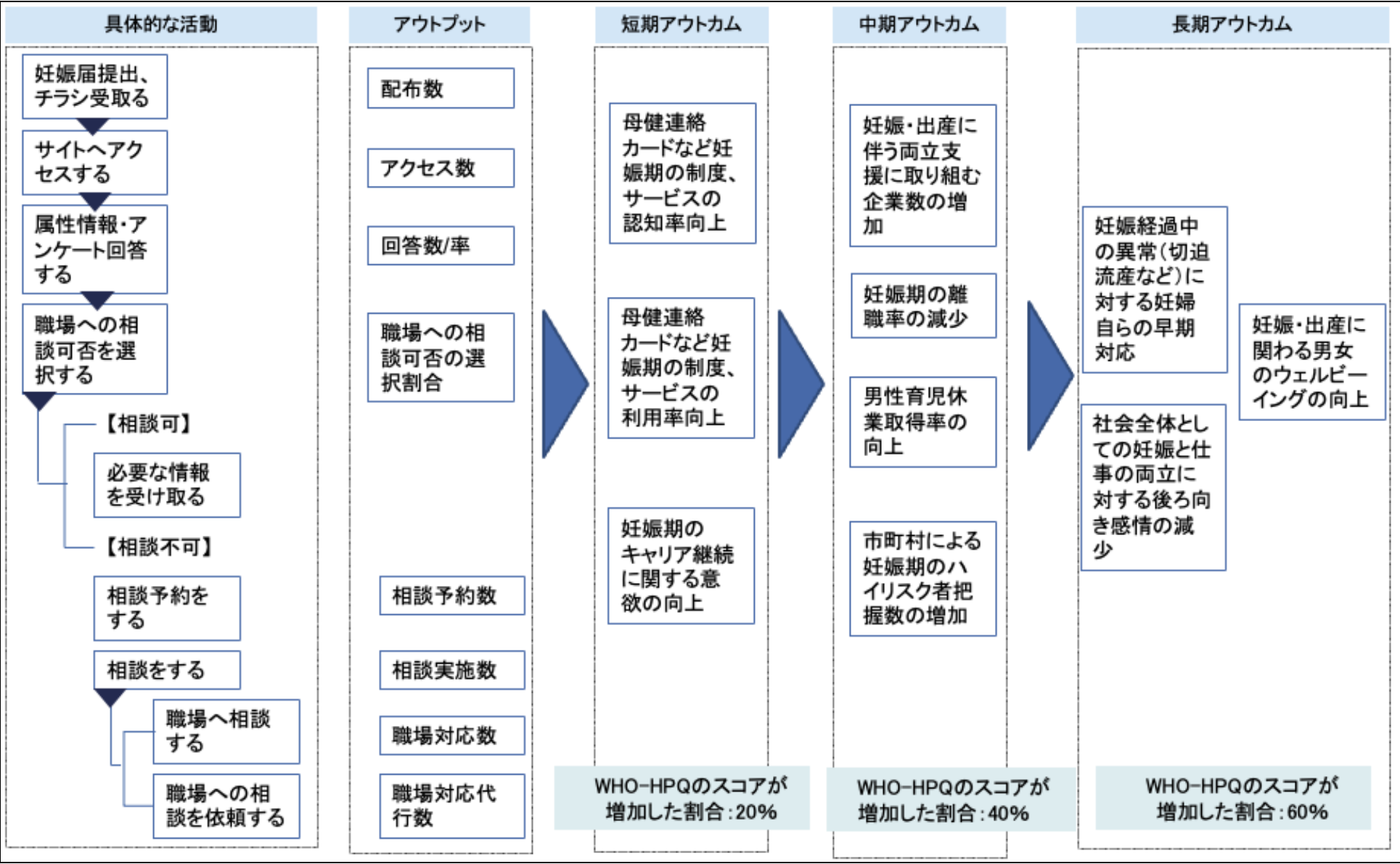
具体的な活動内容

- 中小企業に対するアンケートの実施
- システムの開発
- 協力市町村へのヒアリング／提案／調整
- サービスの展開

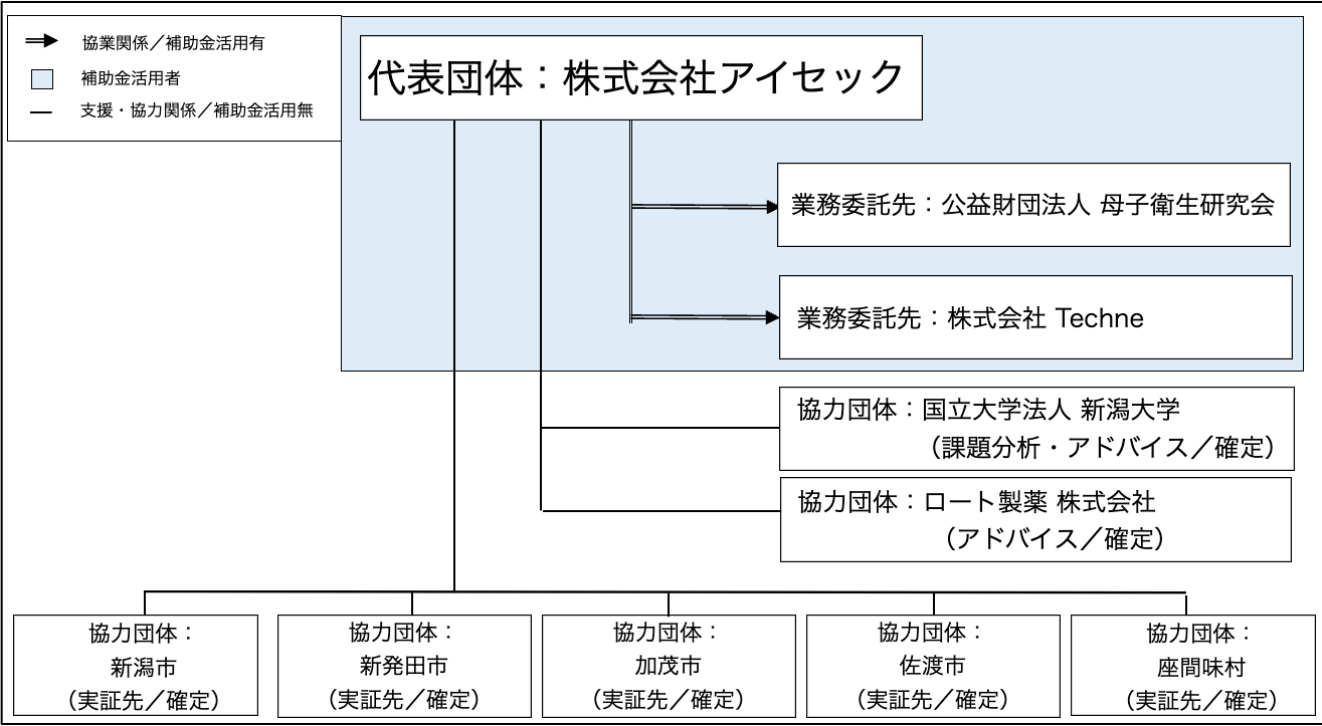


具体的な活動内容・目標・実施体制について

具体的な活動内容及び成果目標について



実施体制について



中小企業における女性の活躍推進についての調査

■ ■ ■

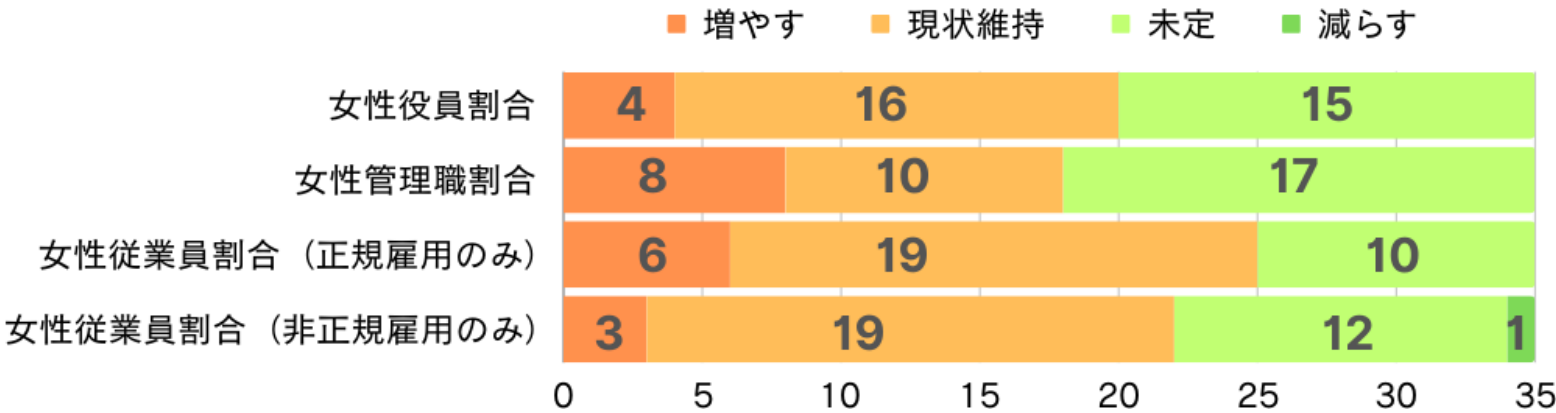
女性の健康課題に関する県内中小企業の動向についてのアンケート結果①

- 女性の健康課題への取り組み状況及び女性活躍推進に関する新潟県内企業の取り組み状況を把握するために、下記アンケートを実施した。
- 女性の活躍を推進していると回答した企業は70%を超えるが、その内の約65%が「課題がある」と回答している。
- 女性の活躍推進の課題については、「女性社員本人が現状以上の活躍を望まない」と回答した企業が20社で、約57%と最も多い。
- 女性役員、従業員等に関する今後の方針については、全体的に「現状維持」が最も多い。役職別では、「管理職」を増やすと回答した企業数が8と最も多い。

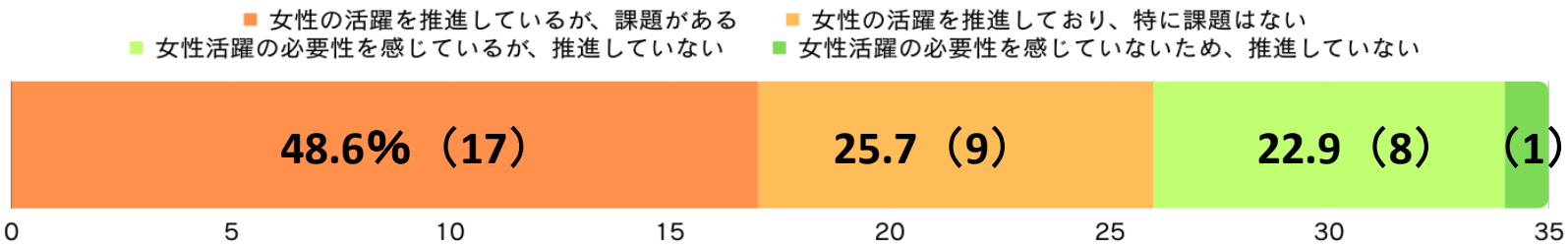
実施概要

- 目的：県内企業の仕事と妊娠・出産の両立支援制度・取組状況・課題等の把握
- 共同実施：新潟県福祉保健部 後援：新潟商工会議所
- 実施時期：2023年10月16日（月）～11月10日（金）
- 対象：新潟商工会議所会員企業（新潟市内の1,500社）
- 回答企業数：36社
- 回答率：2.4%

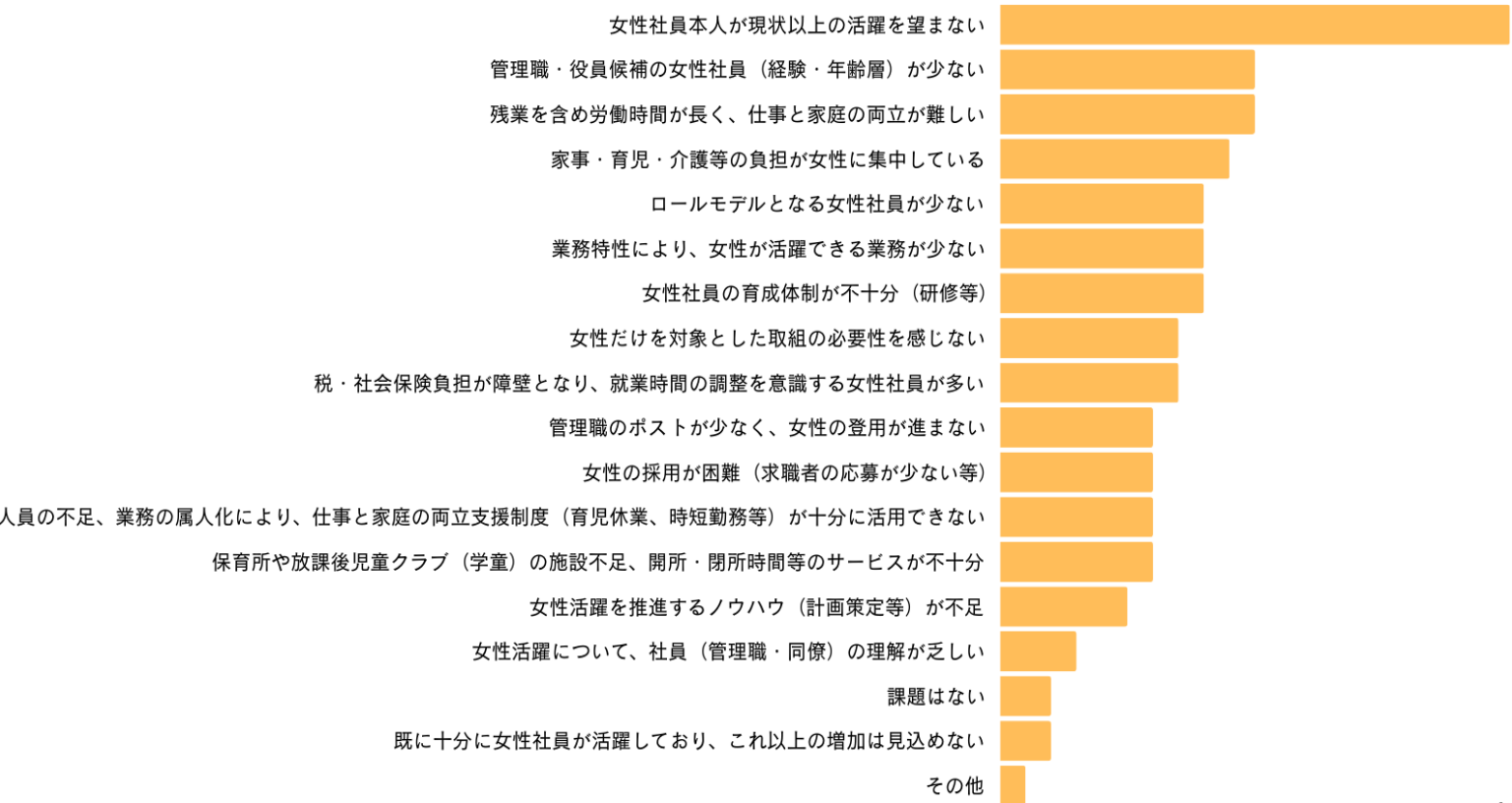
女性役員、従業員等に関する今後の方針は？



女性の活躍に係る取組や課題について、以下のうち、該当するものは？



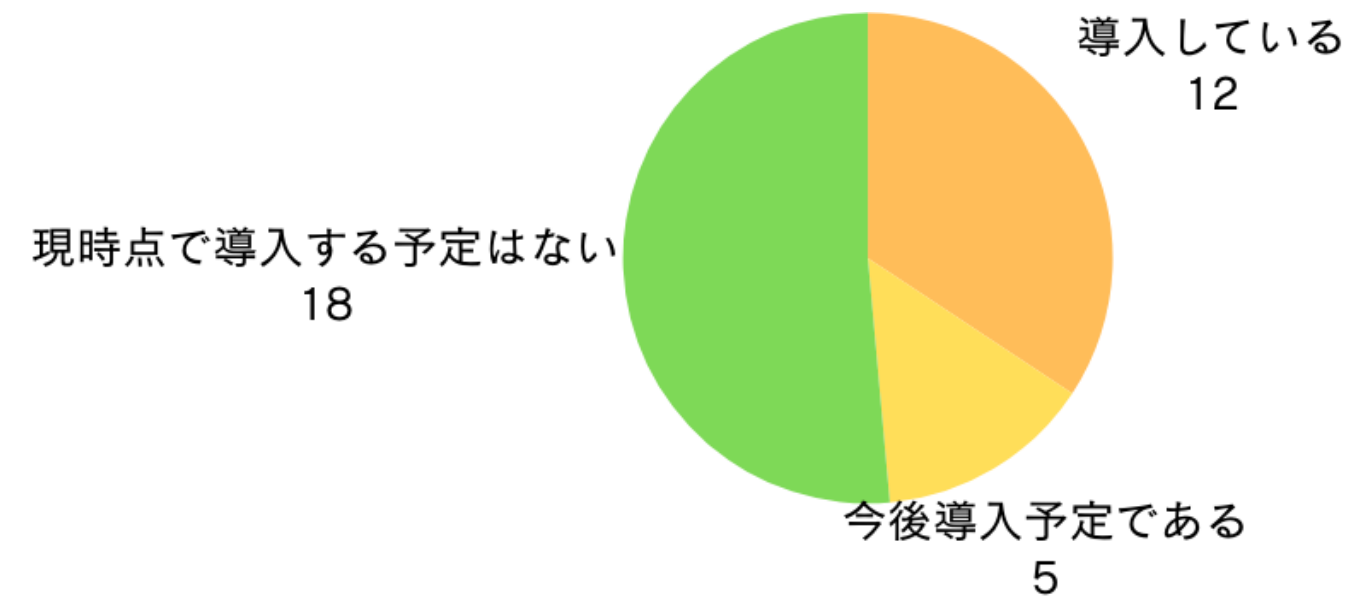
女性活躍の課題として、以下のうち、該当するものは？



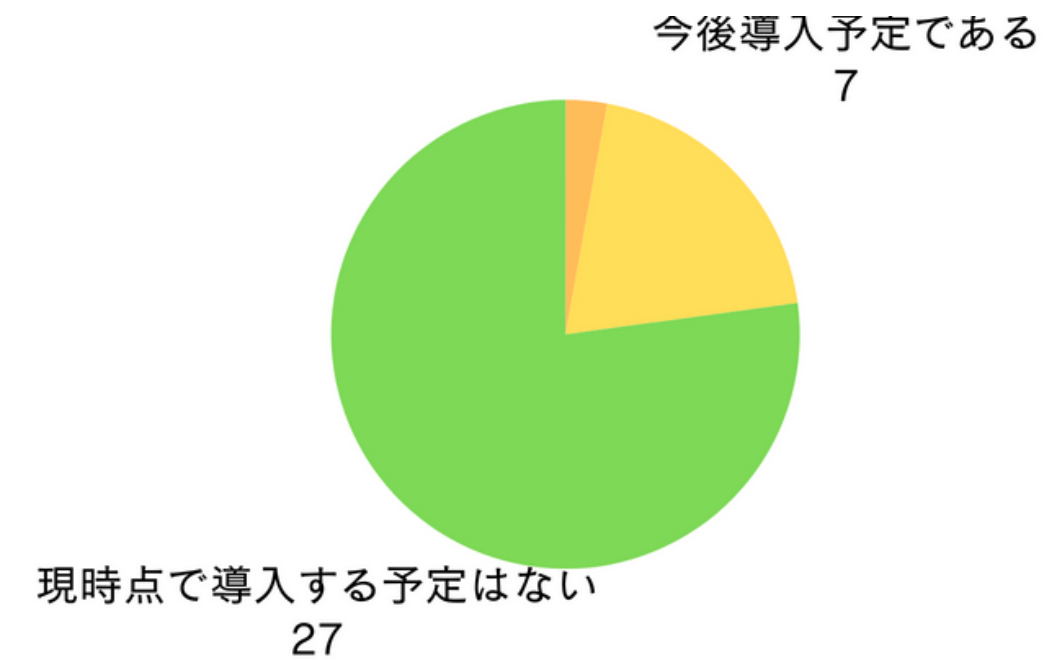
女性の健康課題に関する県内中小企業の動向についてのアンケート結果②

- 生理や更年期障害等、女性特有の体調不良時の休暇・休養の配慮に関する制度の導入状況については、17社、約48.6%が「既に制度として導入している」、もしくは「導入する予定である」と回答しているが、半数以上は「今後も導入する予定はない」と回答している。
- 不妊治療に関する休暇制度については、1社が導入済、7社が導入を検討しており、全体として8社、約22.9%が「既に制度として導入している」、もしくは「導入する予定である」と回答している。

女性特有の健康課題に対する制度について、
現在の取り組み状況に該当するものは？



不妊治療休暇制度についてについて、
現在の取り組み状況に該当するものは？



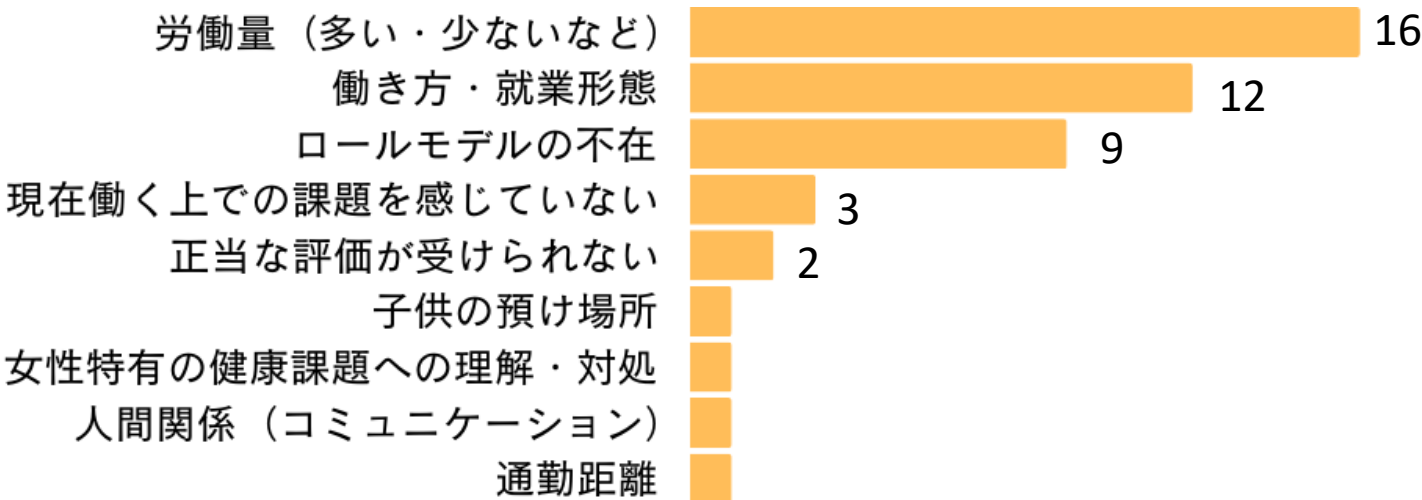
従業員が感じる女性が働く上での課題等について

■ ■ ■

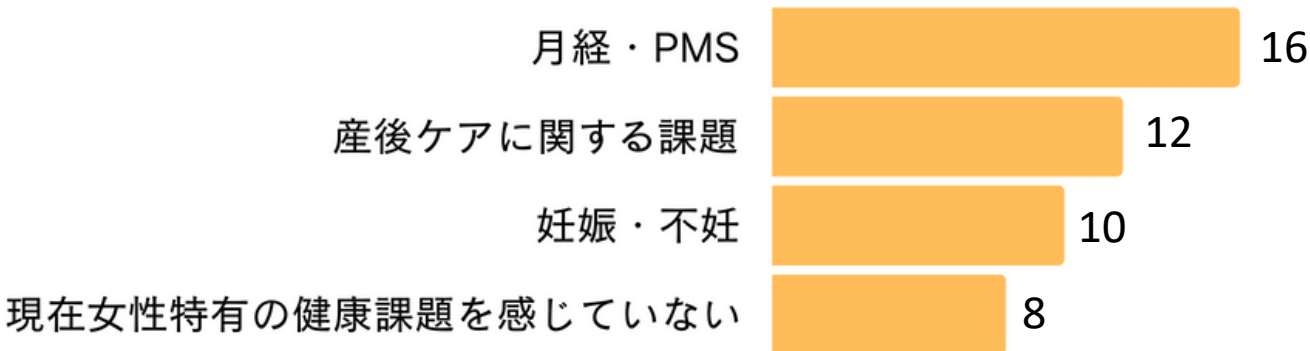
女性が働く上での課題及び健康課題についてのアンケート結果

- 利用者のアンケートより、女性が働く上で感じている課題や健康課題等についてまとめた。
- 働く上での課題については、16名が選択し「労働量（多い・少ない）」最も多い。次いで、「働き方・就業形態」「ロールモデルの不在」と続く。
- 女性特有の健康課題については、「月経・PMS」が16と最も多く、次いで「産後ケアに関する課題」、「妊娠・不妊」と続く。
- 感じている健康課題等に対しての行動は、60%が行動を起こしていない。
- 具体的な行動については、「医療機関における各種検診・検査の実施」が8と最も多い。

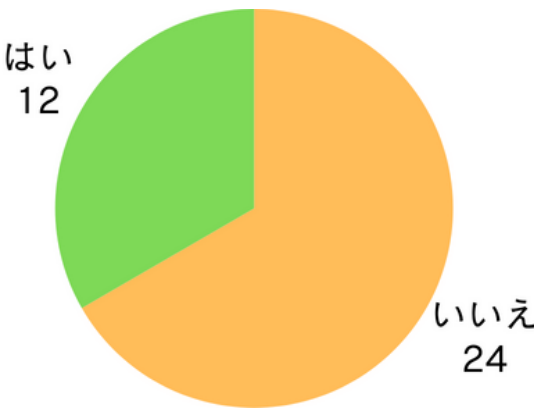
現在、働く上でどのような課題を感じていますか。



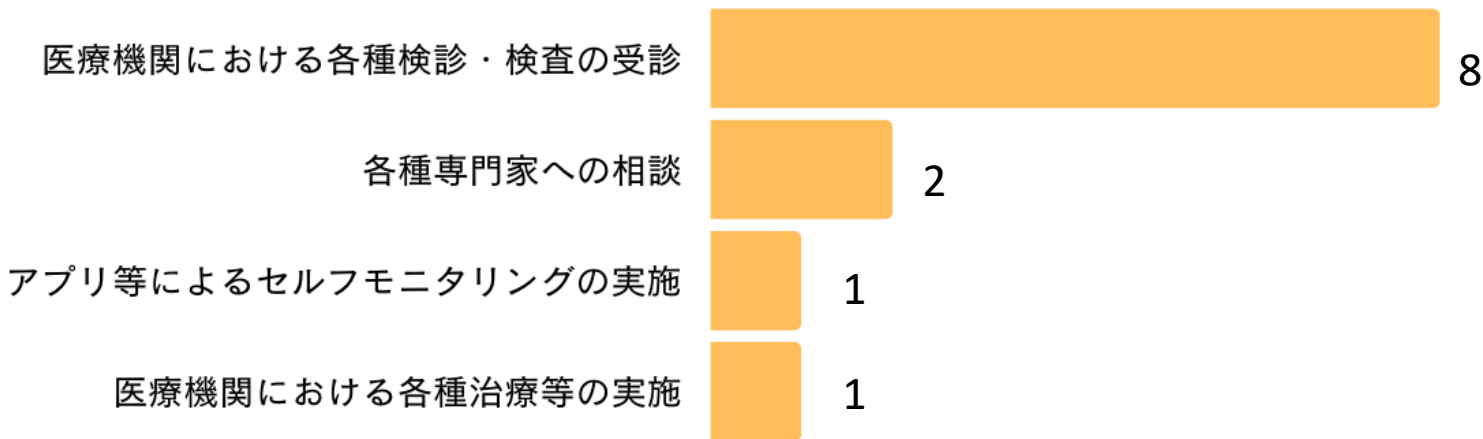
現在、どのような女性特有の健康課題を感じていますか。



感じている健康等の課題を解決するための行動をしていますか。



具体的にどのような行動をしていますか。

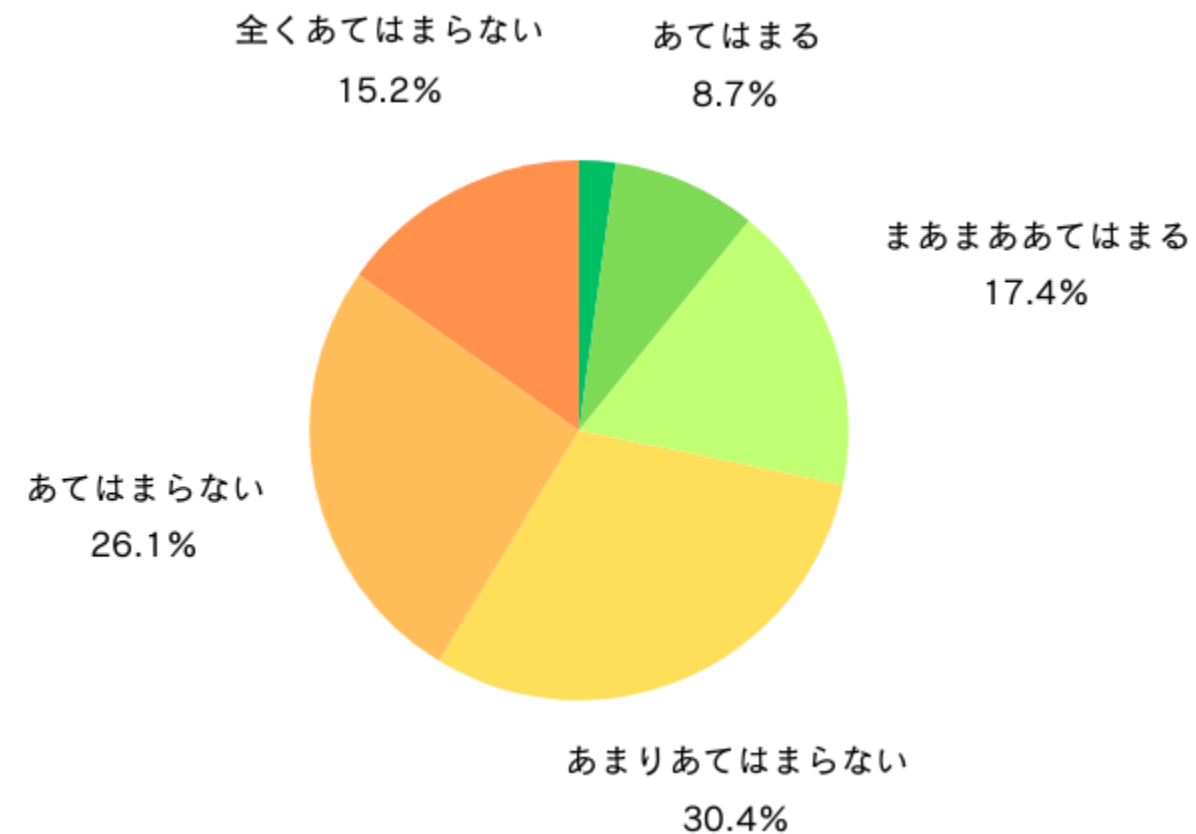


n=46(利用前アンケート回答の就労者者)

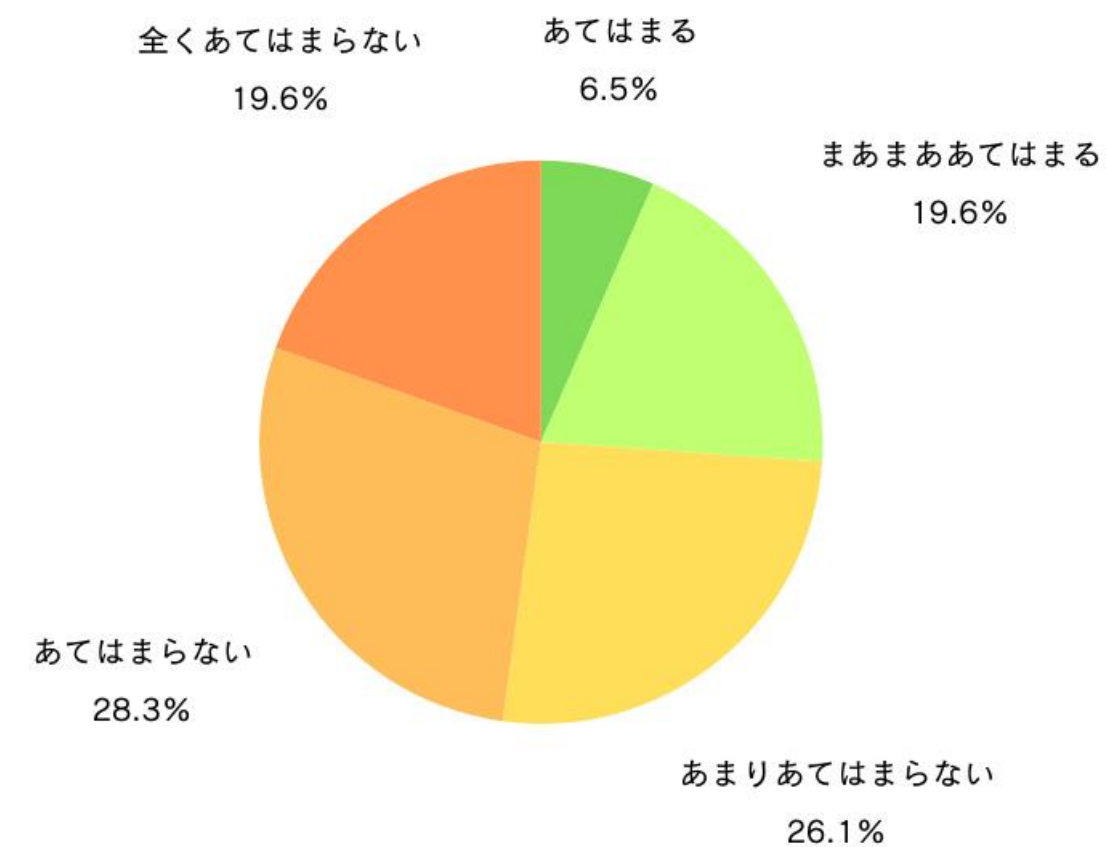
働きがいやキャリアイメージについて

- 将来のキャリアについての質問については、「将来のキャリアで取り組んでみたいと思っていることや目標がある。」は、「あまりあてはまらない」が最も多く30.4%（回答数14）で、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」「全くあてはまらない」で全体の71.7%（回答数33）をこえる。
- 「自分のキャリアについて将来像がイメージできる。」についての質問は、「あてはまらない」が最も多く28.3%（回答数13）で、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」「全くあてはまらない」で全体の73.9%（回答数34）にあたる。

私は、将来のキャリアで取り組んでみたいと思っていることや目標がある。



私は、自分のキャリアについて将来像がイメージできる。



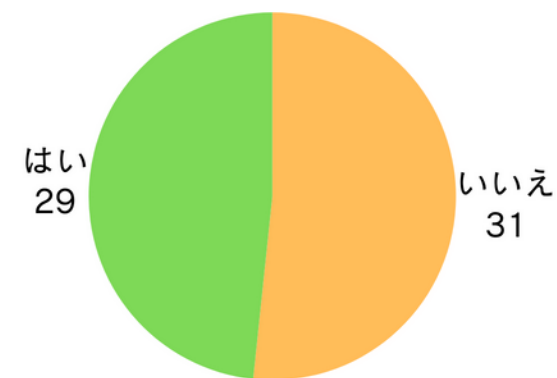
n=46(利用前アンケート回答の就労者者)

本サービスを展開するにあたってのユーザーの課題・ニーズについて

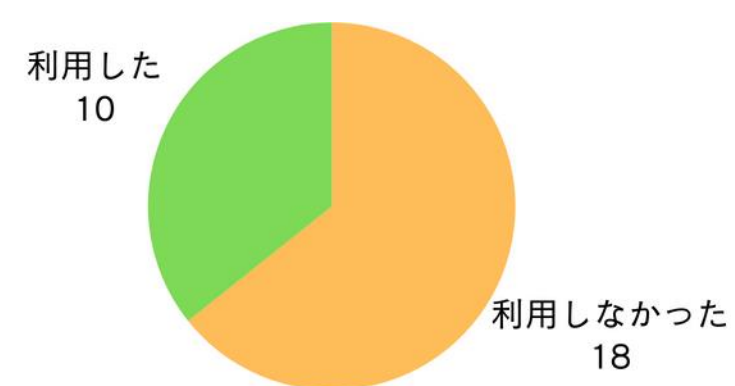
- 母健連絡カードの認知度は約50%。その60%は利用せず。理由としては「会社に迷惑がかかるから」「特に不調がなかった」などが多い。
- Whooleyの二質問から、オンライン健康相談の推奨者は29名（約50%）いずれの質問も「はい」と答えた人は15名で全体の約25%にあたる。
- ワークライフバランスに関しての悩みや困りごとは、全体の63%が何かしら抱えているようだ。

会社への働きかけについて

「母性健康管理指導事項連絡カード」
（母権連絡カード）を知っているか？



「母健連絡カード」知っている方、
利用したか？

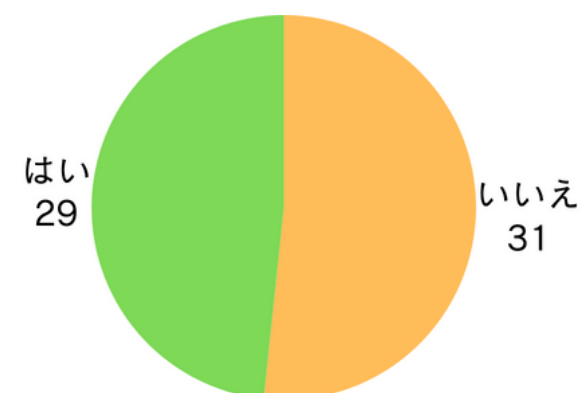


「母健連絡カード」を利用しなかった理由（抜粋）

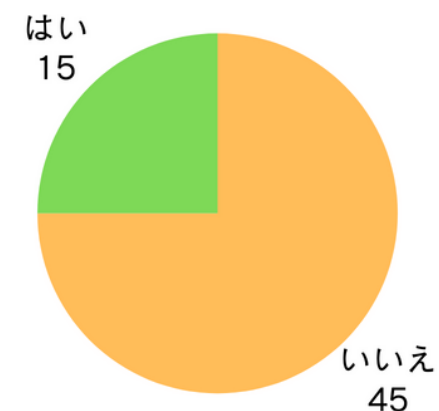
- 出すまでもないと思った。出されても上司も初めて見るものだと思うし、戸惑うと思う
- 迷惑になりそう
- 職場に迷惑をかける事が気になり退職してしまった
- 休むことで給与や産後の手当が減額になるのが嫌だった。妊娠公表前だったため、周りに秘密にしたかった。休みについて相談しにくい上司だった
- カードを使用するほどではないと思ったこと、休みがちなのでこれ以上迷惑をかけたくないと思った
- 特に不調がなかった

心の状態について

この1ヶ月間、気分が沈んだり、憂うつな気持ちになったりすることがよくありましたか。

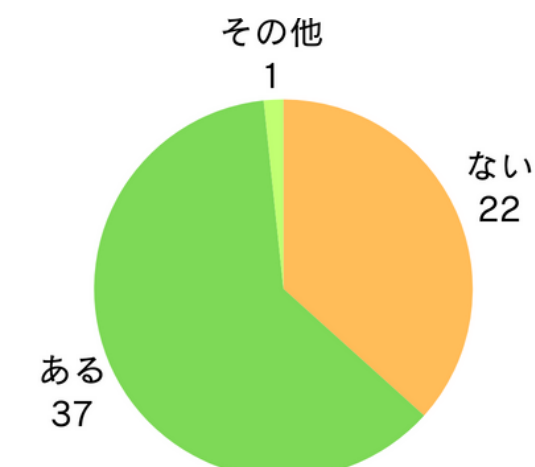


の1ヶ月間、どうしても物事に対して
興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。



n=60(利用前アンケート回答者)

仕事と妊娠、育児のバランスなどワークライフバランスに関して、
困っていることや悩んでいることはありますか？



実証の成果について

■ ■ ■

アウトプットに関する実証結果

- アウトプットについては、当初計画よりシステムリリースの遅延及び市町村との交渉期間の延長により、実証期間が約1ヶ月となった。
- 1ヶ月の実証期間としての修正計画に対して、結果として参加者は105人（修正計画値67.7%）、問診アクセスに関しての利用割合は達成したものの、AIチャットボット及びオンライン健康相談の利用割合については未達となった。

項目	計画根拠	修正計画	結果		
協力自治体数	—	5市町村	5市町村		✓
実証期間	—	1か月	1か月		✓
利用対象者	年間出生数合計6,115人÷12*1	500人	—		
利用登録者	500人×就業割合0.776×利用割合40%	155人	105人	利用割合 21%	✗
問診アクセス数	利用割合 95%	147人	105人	利用割合 100%	✓
AIチャットボット利用者	利用割合 85%	131人	16人	利用割合 15.2%	✗
オンライン健康相談利用者	利用割合 30%	46人	1人	利用割合 0.1%	✗

各市町村の利用対象者及びリクルート方法等

- 市町村ごとの利用対象者数及び本サービスの案内のタイミング等は下記の通りである。

年	年間出生数	配布時の説明	窓口設置	妊娠届出	妊婦面談	安産教室	プレママプレパパ教室	出生届出時	新生児訪問	離乳食教室	乳幼児健診	股関節健診	両親学級	予防接種関連	その他
加茂市	110	○	—	○	○	—	○	○	—	○	○	—	—	○	○
佐渡市	247	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○	—	○	—	—
新発田市	578	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新潟市	5,173	○	△	○	○	△	△	—	—	○	△	○	—	○	○
座間味村	7	○	—	○	○	—	—	○	○	—	—	—	—	○	—
計	6,115	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

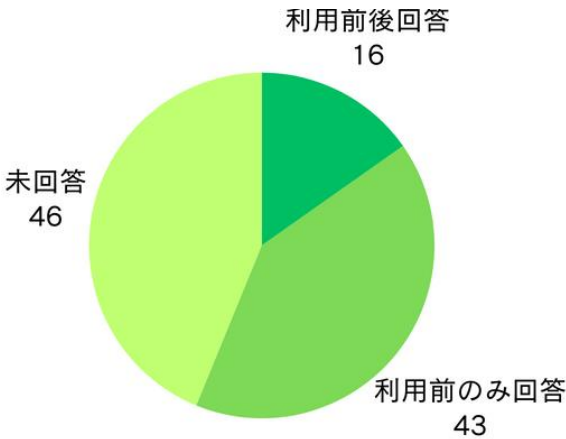
※出生数は令和2年出生数統計より

利用者の属性について

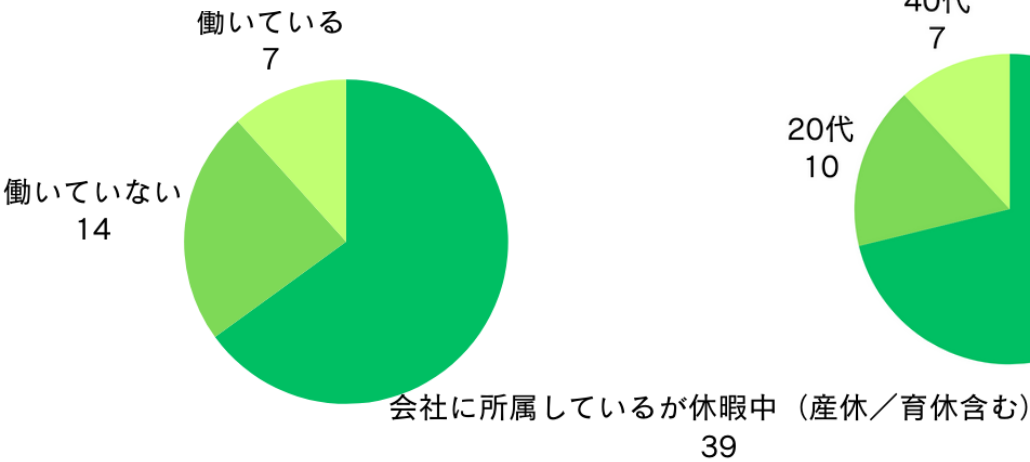
- 利用者の属性は以下の通り。

利用者全体

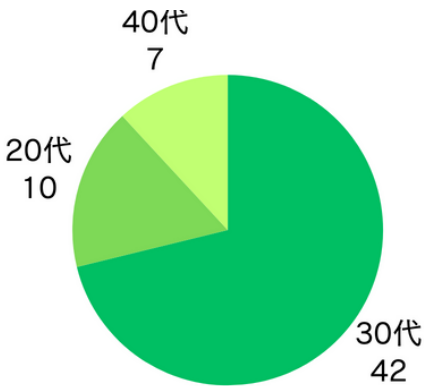
回答状況



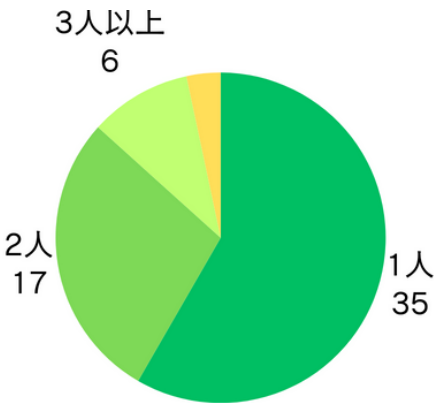
現在の就労状況



年代

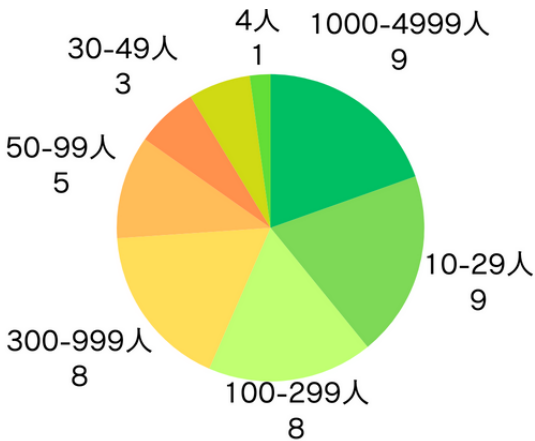


子ども数

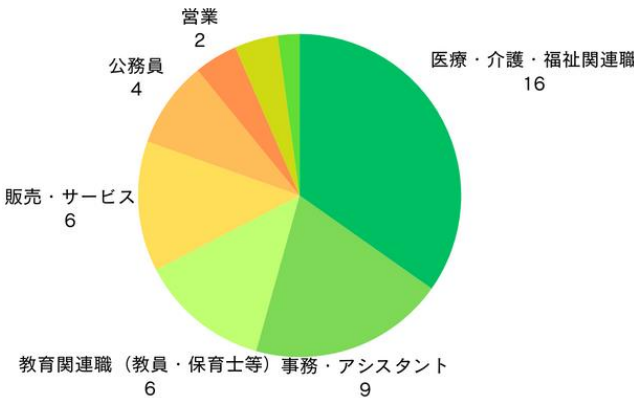


就労中の人

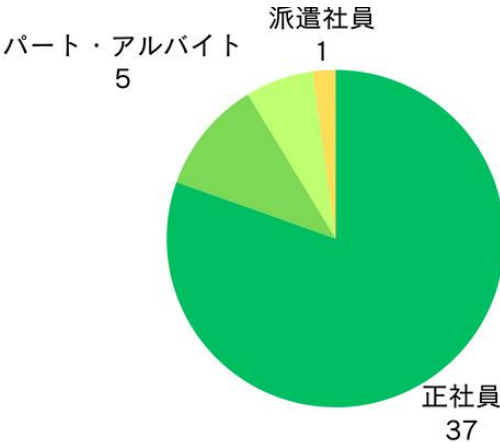
従業員規模



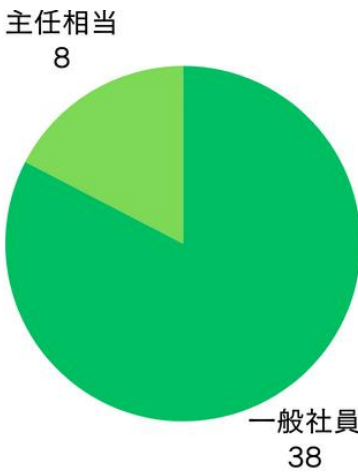
職種



雇用形態



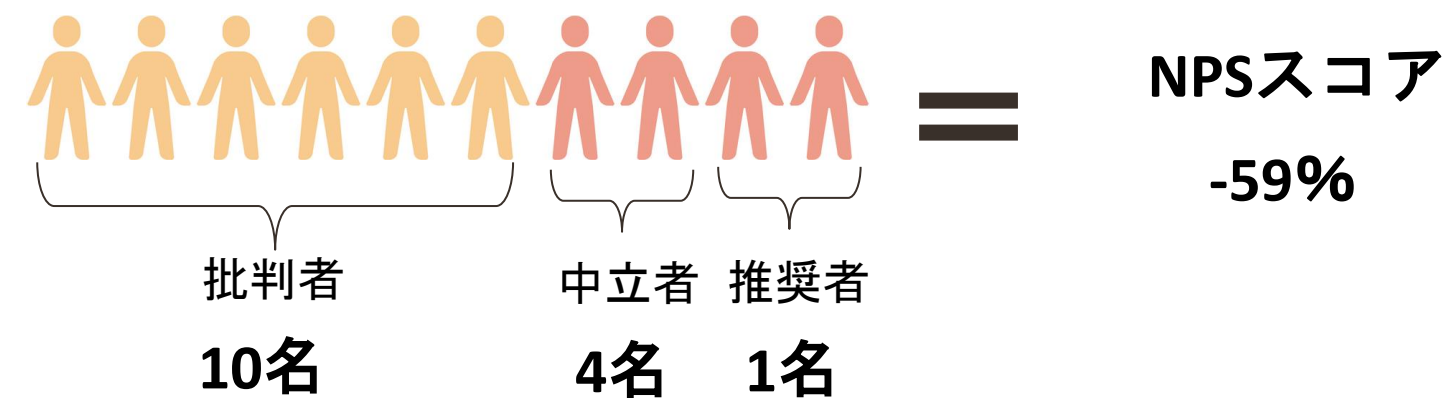
役職



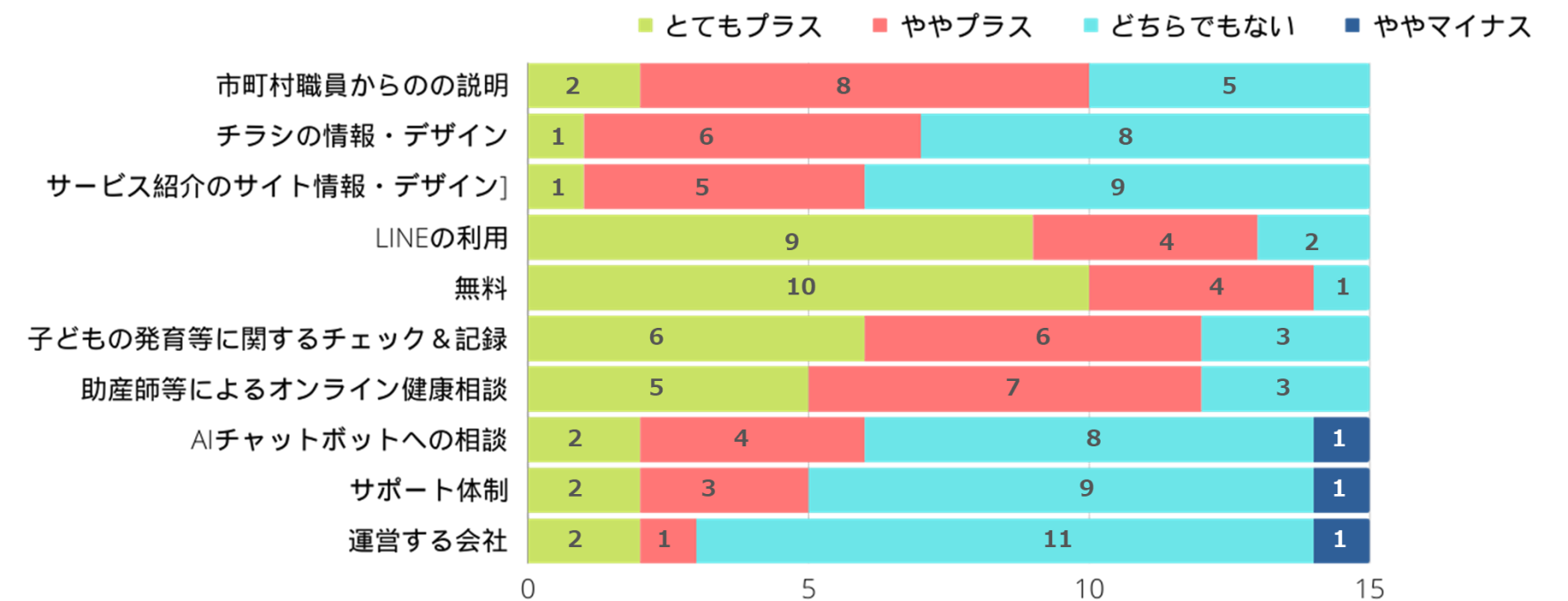
実証全体を通じた成果・アンケート結果（サービス満足度）

- 利用者に対して、「出産や育児中の友人やご家族が身近にいた場合、このLINE相談サービスをどのくらいおすすめしたいですか？0~10点で点数を付けてください。」と質問したところ、9~10が1名、7~8が4名、1~5が10名で、NPSスコアは-59%となった。
- 「費用が無料」と「LINEの利用」がNPSスコアをつけるにあたってプラスに働いている。
- サービス内容としては、「子供の発達チェック」に次いで、「オンライン健康相談」がプラスに働いているが、「AIチャットボット」については評価が分かれているようだ。

出産や育児中の友人やご家族が身近にいた場合、このLINE相談サービスをどのくらいおすすめしたいですか？0~10点で点数を付けてください。



おすすめ度をつけるにあたって、以下の項目がどの程度プラスもしくはマイナスに影響しましたか？



おすすめ度をつけた理由（肯定的な意見）

- オンラインかつ無料で相談できるから
- 気軽に相談できるのは有難いと感じたから
- LINEで相談できるところが気軽に良い
- 登録しているだけで安心できる

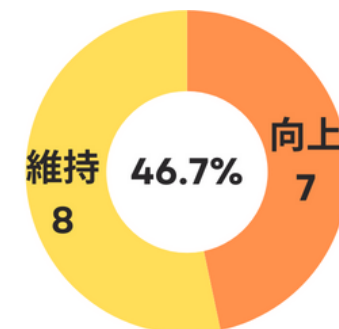
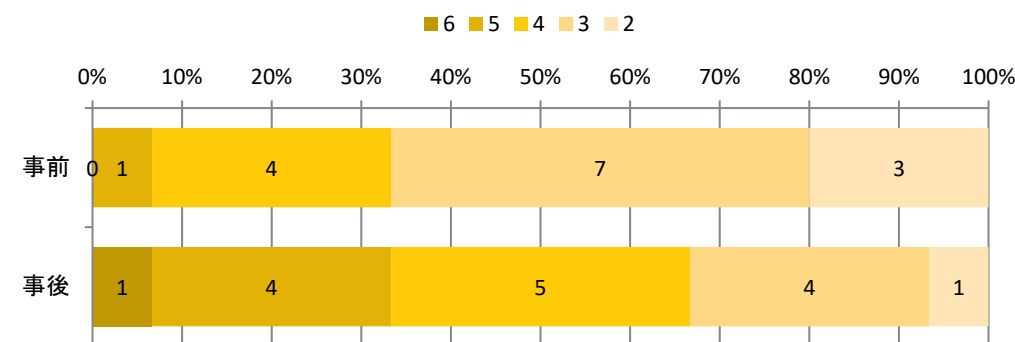
おすすめ度をつけた理由（否定的な意見）

- まだ使用して時期があさいから
- まだあまり利用できていないから
- 登録用のSMSが届かなくて登録出来なかった。企画や内容等は良いと思うので5にしました。

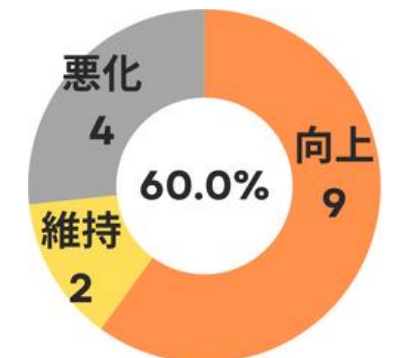
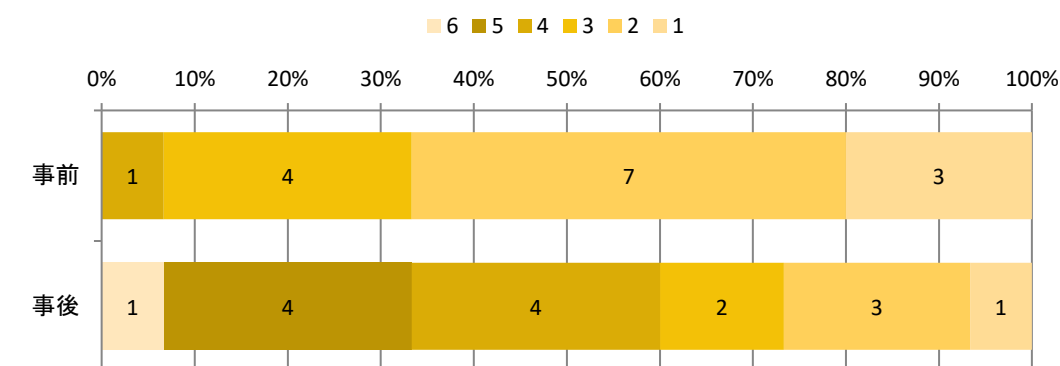
実証全体を通じた成果・アンケート結果（知識・意識の変化）

- リテラシーに関しての実証前後の比較では、「女性の健康についてのたくさんの情報から、自分に合ったものを選ぶことができる。」は7名（46.7%）が、「自分の体のことについて、アドバイスや情報を参考にして実際に行動することができる。」は9名（60%）が向上した。
- 「心配事があるときに、医療従事者に相談することができる」については、7名（46.7%）が向上した。
- 一方で、「行動」に関連する設問において実証後にスコアが下がった人がおり、「行動」を起こすハードルの高さ等があるのかもしれない。

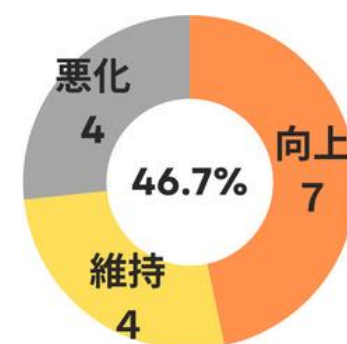
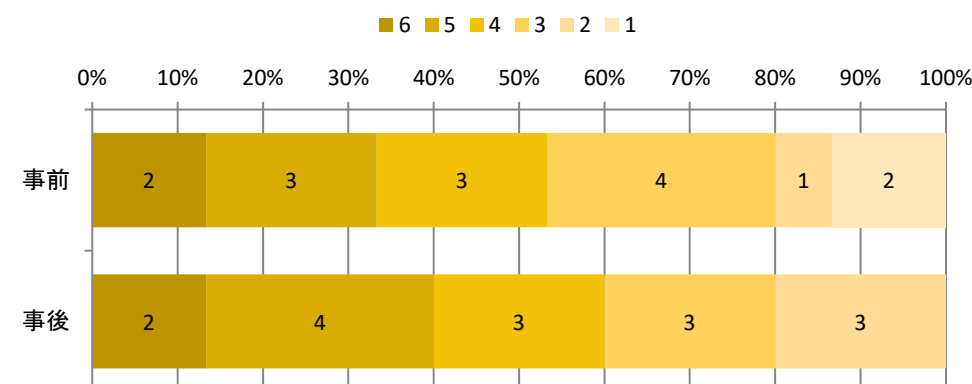
女性の健康についてのたくさんの情報から、自分に合ったものを選ぶことができる。



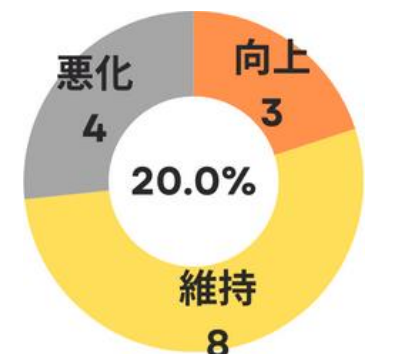
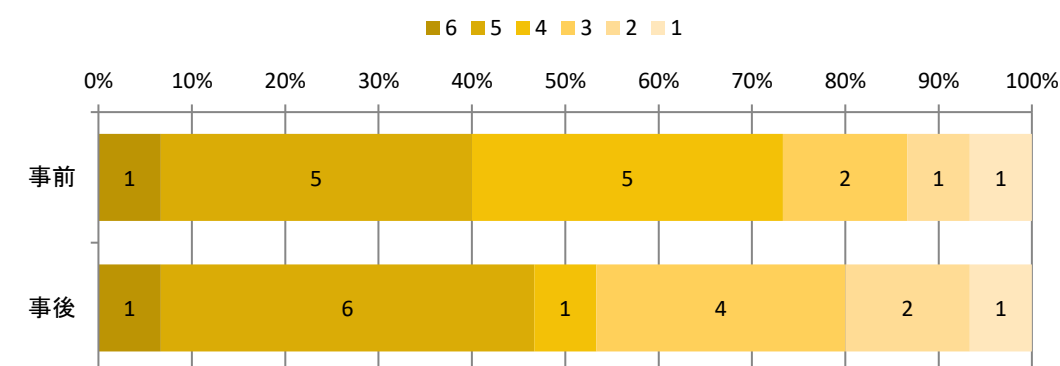
自分の体のことについて、アドバイスや情報を参考にして実際に行動することができる。



自分の体について、心配ごとがあるときは、医療従事者（医師・保健師・看護師・助産師等）に相談することができる。



職場の女性社員・同僚が、自分の体について心配ごとがあるように感じられるときは、医療従事者に相談を促すことができる。

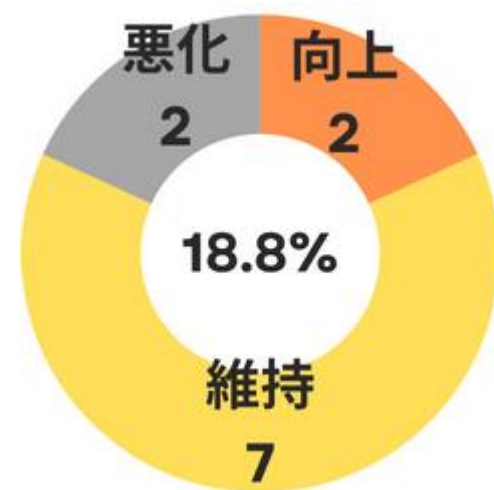
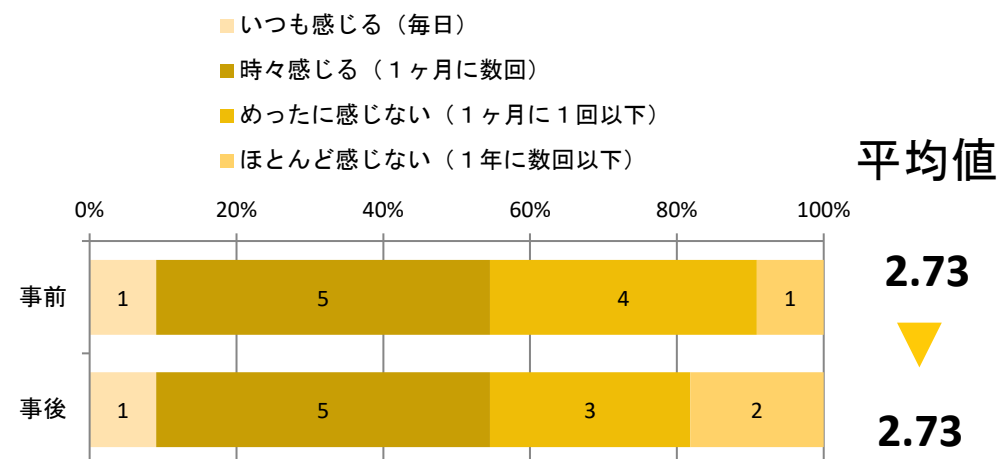


n=15(利用前・利用後アンケート回答者)
(1. 全くあてはまらない～6. とてもあてはまる)

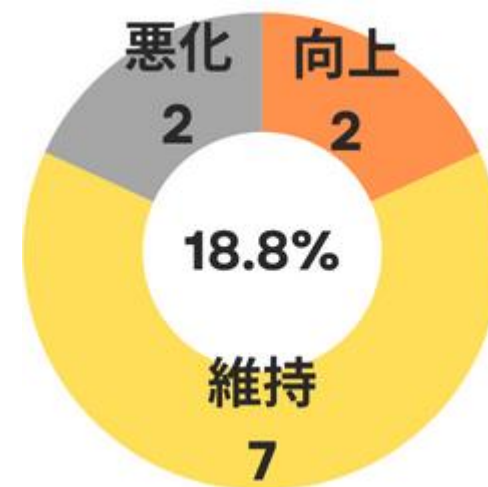
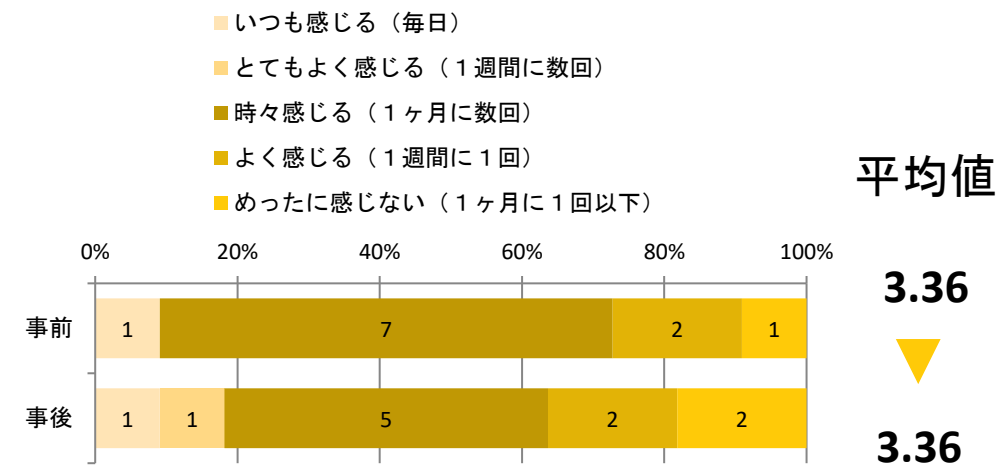
実証全体を通じた成果・アンケート結果（ワークエンゲイジメント）

- ワークエンゲイジメントのスコアの平均値に関しては、実証前後で「活力」と「熱意」は変化なし、「熱意」に関しては2.64→2.91へアップした。
- それぞれでみると、「活力」は実証後向上した人が2名、変化なしが7名、悪化した人が2名と向上した割合は18.8%であった。
- 「熱意」は実証後向上した人が2名、変化なしが7名、悪化した人が2名と向上した割合は18.8%であった。
- 「熱意」は実証後向上した人が3名、変化なしが7名、悪化した人が1名と向上した割合は27.2%であった。

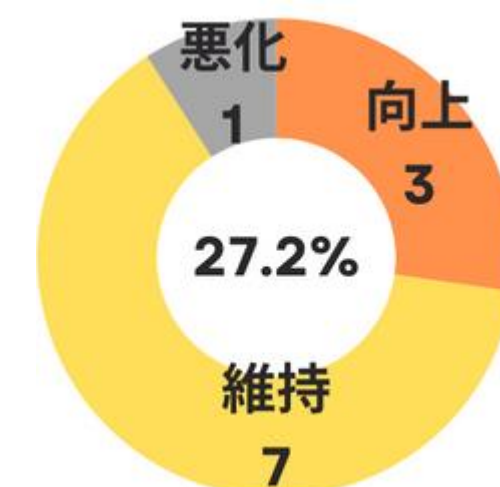
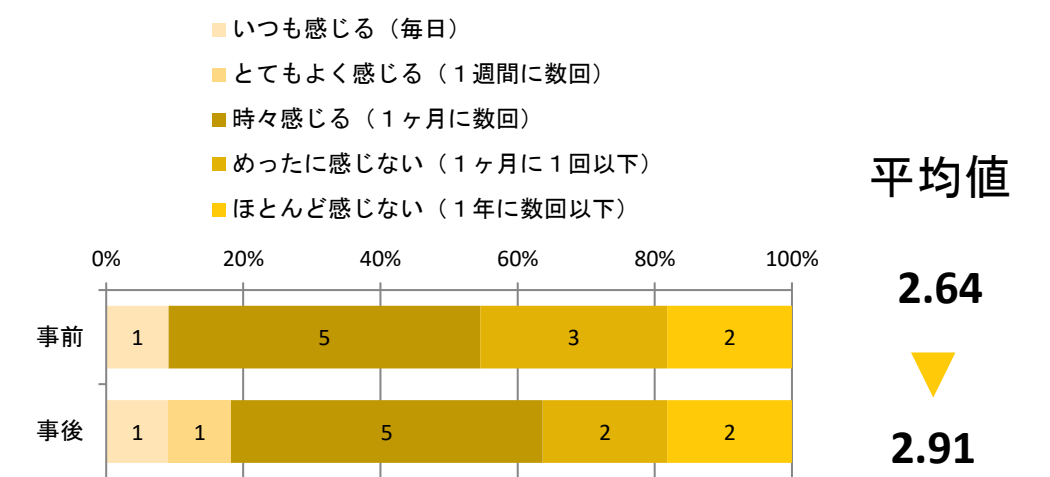
仕事をしていると、活力がみなぎるように感じる



仕事に熱心である



私は仕事にのめり込んでいる



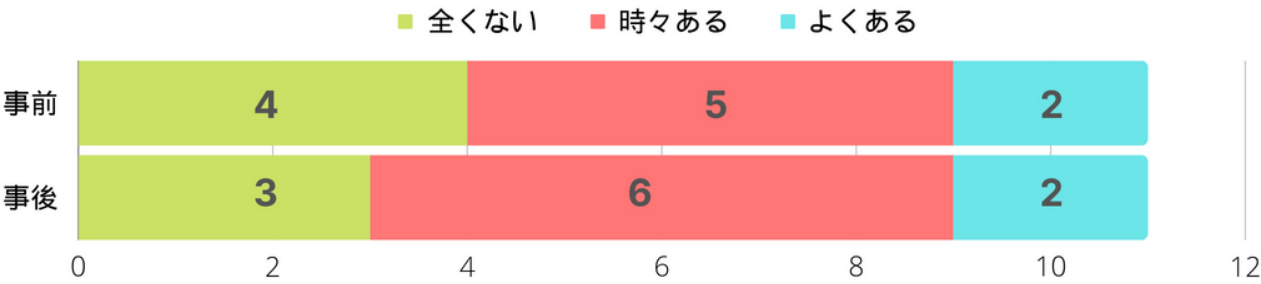
n=11(利用前・利用後アンケート回答の就労者者)

実証全体を通じた成果・アンケート結果（ワーク・ライフ・バランス）

- ワーク・ライフ・バランスについて、日本語版ワーク・ライフ・バランス尺度（SWING-J）より設問を抜粋し、仕事⇄家庭のポジティブあるいはネガティブな影響について回答を得た。
- 回答者のほとんどは、実証期間中が産休・育休等の取得者のためあくまでも参考程度とし掲載する。
- 家庭から仕事へのネガティブな流出は「全くない」と回答した人が最も多く、それ以外（仕事から家庭へのネガティブな影響、仕事から家庭へのポジティブな影響、家庭から仕事へのポジティブな影響）は「時々ある」あるいは「よくある」との回答が多い。

仕事が大変で、家庭でイライラしてしまう

【仕事→家庭ネガティブ流出】



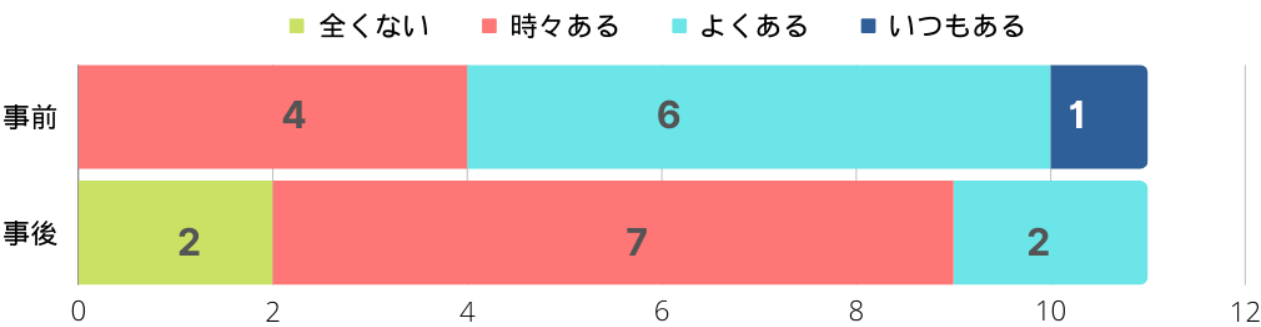
仕事が大変で、家庭でイライラしてしまう

【家庭→仕事ネガティブ流出】



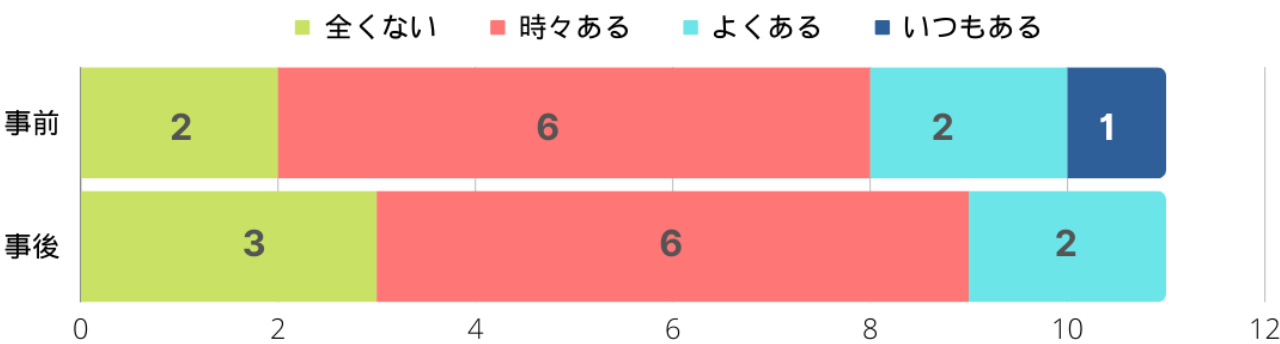
職場でよい1日/1週間を過ごした後は、より配偶者/家族/友人と関わりたい気分になる

【仕事→家庭ポジティブ流出】



仕事が大変で、家庭でイライラしてしまう

【家庭→仕事ポジティブ流出】



3つのサービスに関するユーザーの声

- 利用者の声をベースにアウトプットとして未達であった「AIチャット相談の利用率」及び「オンライン健康相談の利用率」について追加の質問をまとめた。
- オンラインでの健康相談については、「今すぐではないが、あらためて相談を希望したい」という人が全体の半数を占めており、「機会があれば」とどまっている。
- AIチャット相談については、AIを使ったことがある人は利用したが、実際に使ってみたことがない人は、今回の実証事業においても利用につながらなかった。ただし、利用したことがない人でも「機会があれば利用したい」という回答者が多く、抵抗感があるわけではないようだ。

利用者コメントより

オンライン健康相談について



昼間断乳方法について、的確な解決策をもらえた

子どもの発達チェックについて



「はい」「いいえ」で簡単に答えることができ、参考情報も得られるのが良いと思った

AIチャット相談について

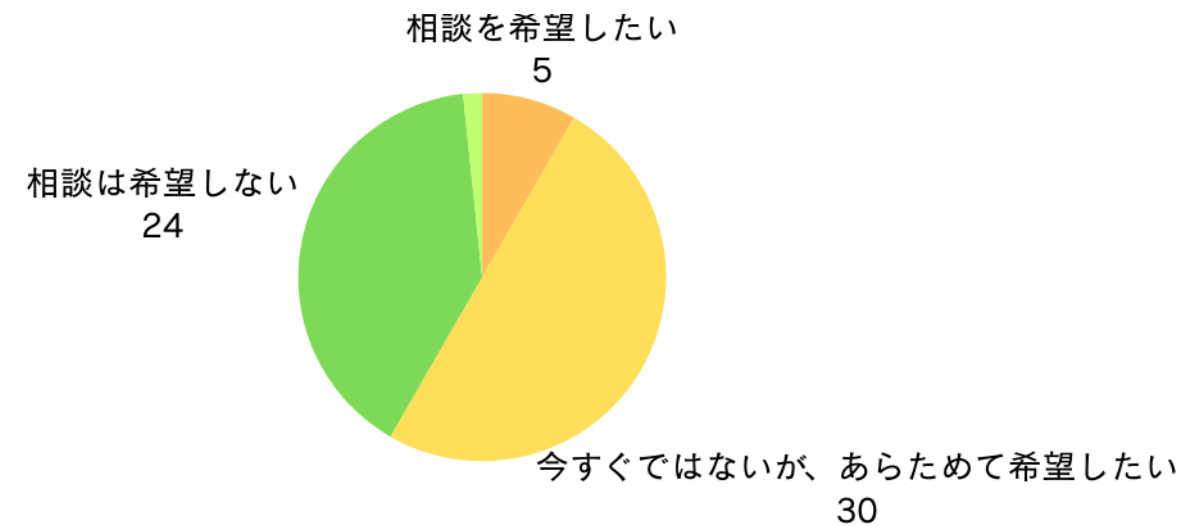


大したことがない症状かもしれないと思ったら具体的に相談しづらかった



質問に対して的を得ない返答が多々あったから。

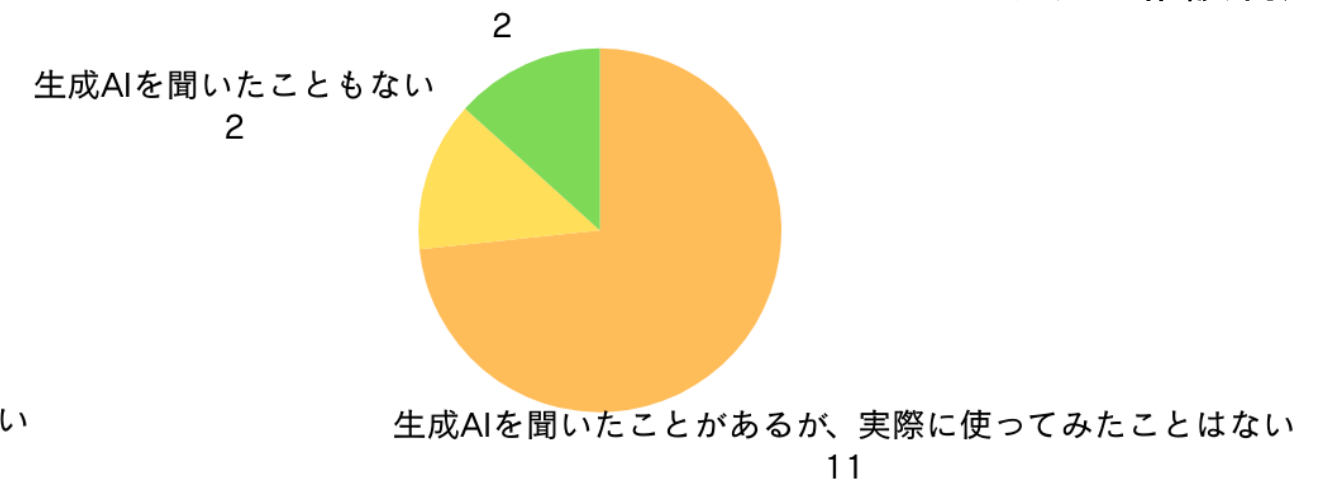
オンライン健康相談を希望しますか？



n=60(利用前アンケート回答者)

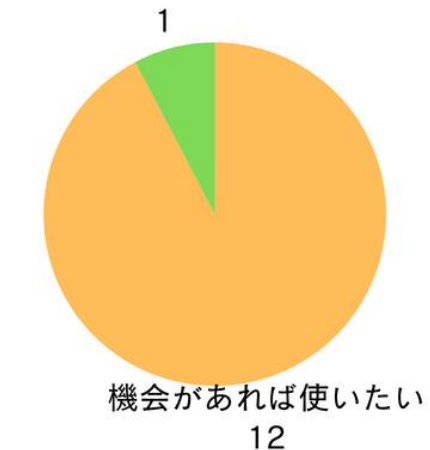
生成AIの利用状況等についてお聞かせください

頻繁にはないが、生成AIを使ったことがある → AIチャット相談利用



今後、生成AIを使ってみたいと思いますか？

よくわからないので使いたくない



成果・アンケート結果からみれること（短期アウトカム）

【満足度】

- ・「出産や育児中の友人やご家族が身近にいた場合、このLINE相談サービスをどのくらいおすすめしたいですか？0~10点で点数を付けてください。」と質問したところ、9~10が1名、7~8が4名、1~5が10名で、NPSスコアは-59%となった。
- ・「費用が無料」と「LINEの利用」がNPSスコアをつけるにあたってプラスに働いている。

【知識・意識の変化】

- ・リテラシーに関しての実証前後の比較では、「女性の健康についてのたくさんの情報から、自分に合ったものを選ぶことができる。」は7名（46.7%の）が、「自分の体のことについて、アドバイスや情報を参考にして実際に行動することができる。」は9名（60%）が向上した。
- ・「心配事があるときに、医療従事者に相談することができる」については、7名（46.7%）が向上した。
- ・一方で、一部の利用者が、「行動」に関連する設問において実証後にスコアが下がった人がおり、「行動」を起こす何らかの障害があると考えられる。

【ワークエンゲイジメント】

- ・ワークエンゲイジメントのスコアの平均値に関しては、実証前後で「活力」と「熱意」は変化なし、「熱意」に関しては2.64→2.91へアップした。

【ワークライフバランス】

- ・ワークライフバランスのスコアについては、大きな変化は得られなかった。家庭から仕事へのネガティブな流出は「全くない」と回答した人が最も多く、それ以外（仕事から家庭へのネガティブな影響、仕事から家庭へのポジティブな影響、家庭から仕事へのポジティブな影響）は「時々ある」あるいは「よくある」との回答が多い。

成果・アンケート結果からみれること（サービス・機能）

【AIチャット相談】

- ・ AIチャット相談については、業務や私生活の中でCharGPT等にふれた機会がある方はAIへ相談することが多く、リテラシーと利用に何らかの関係がありそう。一方で利用していない人の内、90%以上は「機会があれば使ってみたい」と回答しており、「そもそもAIって何が便利なのか？」といったガイダンスなどが必要ではないかと考える。

【子どもの発達チェック】

- ・ 子どもの発達チェックについては簡単にチェックできる一方で、登録時より以前の情報のチェック方法等機能面での要望の声をいただいた。

【オンライン健康相談】

- ・ オンライン健康相談については、50%が「今すぐではないが、いつか利用したい」と回答し、スクリーニング項目に該当した方においてもすぐに利用するというアクションにはつながらななかった。オンラインであったとしても相談というアクションを起こすにはハードルが高そうであり、スクリーニング後のアクションとしては、別の手段を講じる必要があるのではないか。

【サービス全体】

- ・ 一部、登録をしたものの利用方法がわからなかったという声があった。利用するための導線の整理や登録後、利用を促すためのアクションを実施する必要がある。

【継続率・スクリーニング機能の検証】

子どもの発達チェックに組み込まれた利用者のワークライフバランスのチェックやメンタルヘルスのチェックは、定期的にプッシュ型で送り届けられ、チェックしようという意識を持たずとも取り組める点は特徴の一つである。今後、継続利用者を獲得することで、継続率やスクリーニングに関する検証を行っていきたい。

自治体との連携について

■ ■ ■

本実証事業に関する市町村へのインタビュー

- 本実証事業に関して参加した市町村の一部へヒアリングを行った。
- 市町村としてもLINEを利用することの効果や利用者の反応についての関心が高かった。
- 本サービスとしてはフォローが必要な方のスクリーニングとしては有効であると考える一方で、支援の手段には工夫が必要との見解をいただいた。

Q. 本実証事業において期待していたこと、メリットと感じたこと

LINEの使用に対する感想や参加率などが知りたい
どのような方に関心を持ってもらえるのか把握したかった

Q. 本実証事業のサービスを市民の方に説明する際、特に強調した点

LINEの登録をまずすすめた
全員ではないが、「面白いからやってみて」とすすめた

Q. 運用面での課題や利用するにあたって改善してほしい点

登録は簡単だったが、事前のアンケートが長くて大変だった
参加者の属性や利用状況について自治体側でも管理できるとよい

Q. その他、サービス全体についてのご意見やご要望について

スクリーニングとしては有効だが、相談は自ら行わない印象を受けている。
保健師や助産師等が定期的にアプローチすることが重要であるのではないか。
子どもがいるとスマートフォンでのスクリーニングには回答できるかもしれないが、オンラインでの相談はハードルが高い。

市町村との連携に際しの課題・ハードル



担当課のみの判断ではなく、関連部署等の調整や会議での説明が必要であり開始期間が遅延した。自治体において事業は年度事業であるため、年度途中からの実証導入検討については、担当する課のみならず、周辺の部署との調整実施準備や説明等の準備時間を相当数念頭にいれ提案する必要がある。

翌年度事業向けに
年内に提案



前例のない事業を行うに際しては特に慎重であるため、類似する事業との比較や整理を丁寧に行い、類似事業との単純な比較が難しいと感じる担当者が多かった。

ビジョン共感型のパートナー
小さな成功の積み重ね



今回の実証事業に関しては、子育て関連の施策を担当する課がカウンターとなっていたが、日常的な業務や震災などの突発的な事態により、新規事業に取り組む時間的余裕が限られていた。

運用面のサポートや部内調整等
担当者の負担軽減

今後の予定・事業展開

■ ■ ■

今後の予定・事業展開

- 中小企業においても女性の活躍推進に関しての必要性を感じており、管理職比率なども高める意欲があるようだ。一方で、女性特有の健康課題等への取り組みについてはまだ積極的でないようである。
- 女性自身もキャリアビジョンを描けていなかったり、ワークライフバランスの両立に関しては満足度が低く、何等かの課題を抱えているようである。
- この意味でも、中小企業を中心とした女性活躍の推進と女性自身が抱える健康課題・ワークライフバランスの両立に関する“懸け橋”となるような役割は重要であり、ニーズとしてもありそう
- また、市町村を通じて連携することは産休・育休中の働く女性の支援の在り方としては有効である
- 一方で、複数の市町村と連携することの課題やハードルの高さも感じた
- 次のステップとしては、女性の健康課題に対する中小企業間との緩やかなつながりを地域内で形成し、企業側からダイレクトに提供できる仕組みを模索したいと考える